

2024年4月 東京地区百貨店売上高概況

2024年5月24日

I. 概況

1. 売上高総額	1,352億円余
2. 前年同月比(増減率)	10.8%(32か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭11.6%(92.4%)：非店頭2.3%(7.6%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店 (2024年3月対比±0店)
5. 総店舗面積	742,301㎡ (前年同月比：+2.0%)
6. 総従業員数	13,323人 (前年同月比：-4.7%)
7. 3か月移動平均値	9-11月 8.1%、10-12月 7.8%、11-1月 7.4%、 12-2月 9.7%、1-3月 11.7%、2-4月 13.2%

[参考] 2023年4月の売上高増減率は11.5%

【特徴】

4月の東京地区は、売上高10.8%増(32か月連続)、入店客数0.9%増(16か月連続)と、共に前年実績を上回った。増勢が続くインバウンドが牽引した他、物産展等の施策も売上増に寄与した。2019年比でも7.5%増とプラス基調は継続している。

商品別では、主要5品目のうち食料品を除く4品目で前年をクリアした。具体的なアイテムの動向は以下の通り。

主力の衣料品(8.6%増/31か月連続)は、月の前半、雨天が多く季節商材の動きが鈍かったが、後半からの気温上昇に伴い、カットソーやブラウス、薄手のカーディガン等が好調に推移した。婦人洋品では、晴雨兼用傘や帽子、スカーフ等が活発に動いた。

身のまわり品(23.4%増/32か月連続)は、ラグジュアリーブランドが一部価格改訂前の駆け込みもあって二桁増となり、構成比も2割を超えた。またGWの外出需要から、スニーカー等カジュアルシューズが好調だった他、サンダルにも動きが見られた。

雑貨(18.9%増/32か月連続)では、化粧品が気温上昇でUVアイテムに動きが見られた他、高額商材の美術・宝飾・貴金属は、インバウンド需要から時計を中心に好調に推移し、24.3%増と先月に続き大幅に伸長した。

食料品(1.6%減/4か月ぶり)は、桜の開花が後ろ倒しになったことで、花見商戦本番が当月にずれ込み惣菜・弁当等が好調に推移した。菓子も帰省や国内外の手土産需要から堅調だったが、生鮮食品は価格上昇の影響から1.7%減と7か月ぶりにマイナスとなった。

5月中間段階の商況は、労働節(5/1~5)でインバウンドが伸長し、前年比19.7%増(5/16時点)で推移している。2019年比でも23.6%増と高い伸びを見せている。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数16店舗)
①増加した：7店、②変化なし：4店、③減少した：5店
- (3) 4月歳時記(春物商戦、GW)の売上 (同上/有効回答数11店舗)
①増加した：7店、②変化なし：3店、③減少した：1店

東京地区百貨店 売上高速報 2024年4月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	135,233,992	100.0	10.8
紳士服・洋品	10,607,134	7.8	10.7
婦人服・洋品	22,597,170	16.7	10.5
子供服・洋品	3,079,408	2.3	-1.4
その他衣料品	1,430,560	1.1	-8.3
衣 料 品	37,714,272	27.9	8.6
身のまわり品	27,494,910	20.3	23.4
化粧品	11,748,600	8.7	15.1
美術・宝飾・貴金属	16,459,022	12.2	24.3
その他雑貨	4,864,035	3.6	11.5
雑 貨	33,071,657	24.5	18.9
家 具	1,425,587	1.1	7.8
家 電	1,148,676	0.8	4.1
その他家庭用品	2,910,813	2.2	2.8
家 庭 用 品	5,485,076	4.1	4.3
生 鮮 食 品	2,978,448	2.2	-1.7
菓 子	7,617,754	5.6	0.8
惣 菜	5,911,025	4.4	0.9
その他食料品	8,125,863	6.0	-5.5
食 料 品	24,633,090	18.2	-1.6
食 堂 喫 茶	2,387,249	1.8	2.3
サ ー ビ ス	2,037,575	1.5	2.5
そ の 他	2,410,163	1.8	-6.2

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	1,322,022 千円	-6.6
従 業 員 数	13,323 人	-4.7
店 舗 面 積	742,301 m ²	2.0

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は食料品を除く4品目でプラスとなり、身のまわり品、雑貨は二桁増となった。その他の品目は、紳士服・洋品が3か月連続、化粧品が32か月連続でプラスとなったほか、家電が7か月ぶりでプラスとなった一方、生鮮食品が7か月ぶりにマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	10.8	—	32か月連続プラス
紳士服・洋品	10.7	0.8	3か月連続プラス
婦人服・洋品	10.5	1.8	32か月連続プラス
子供服・洋品	-1.4	-0.0	2か月連続マイナス
その他衣料品	-8.3	-0.1	2か月連続マイナス
衣料品	8.6	2.5	31か月連続プラス
身のまわり品	23.4	4.3	32か月連続プラス
化粧品	15.1	1.3	32か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	24.3	2.6	11か月連続プラス*
その他雑貨	11.5	0.4	3か月連続プラス*
雑貨	18.9	4.3	32か月連続プラス
家具	7.8	0.1	7か月連続プラス
家電	4.1	0.0	7か月ぶりプラス
その他家庭用品	2.8	0.1	2か月連続プラス
家庭用品	4.3	0.2	2か月連続プラス
生鮮食品	-1.7	-0.0	7か月ぶりマイナス*
菓子	0.8	0.1	7か月連続プラス*
惣菜	0.9	0.0	4か月連続プラス*
その他食料品	-5.5	-0.4	3か月ぶりマイナス*
食料品	-1.6	-0.3	4か月ぶりマイナス
食堂喫茶	2.3	0.0	26か月連続プラス
サービス	2.5	0.0	4か月連続プラス
その他	-6.2	-0.1	2か月連続マイナス
商品券	-6.6	-0.1	2か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>